



エグいはヤバい

日本全土を猛烈な寒波が襲いましたが、幸い千葉市は雪も降らずに何とか乗り切ることができました。中3生のみなさんも全員が抑えの高校を確保して公立入試に臨みます。入試日は暦の上では立春を過ぎていますがまだまだ寒さが続きそうです。防寒対策とコロナ対策の両方を万全におきましょう。

さて先日の授業のこと、ある中2生が「この問題エグいよ。」と言って数学の練習問題にあきらめ顔。「どうエグいんだい？」と聞くと「とにかくヤバいんだよ。」との返答。いやいやそれでは解説のしようがありません。問題のどこが自分にとってどう難しいのかを伝えられないようなのです。もちろんそこがわかっていたら半分は解けたようなものなのですが、それができないことが一番ヤバいのかもかもしれません。今回の中2のテスト範囲である「数学の証明」なども「証明＝説明のパターン」に戸惑っている人が多いようです。考え方は合っているのに模範解答とまったく同じでなければいけないと思込み、はじめの一文字が書き出せないのです。例えば三角形の合同を説明するとき、仮定から始めようが自分が見つけた条件を先に書こうが最終的に合同条件に当てはまれば大丈夫なのに表現すること自体放棄してしまうのが残念。どの相手にもわかるように客観的に伝えるためには、それなりの意志と練習が必要ですがあきらめてほしくはないと思います。大人でも伝える努力を惜しんでその時の流行り言葉で済ませてしまう傾向はあります。少し前なら「ほぼほぼこんなところ。」「1ミリも思っていない。」「真逆の行動に出た。」をよく聞きました。実はお役所言葉にも流行があって「これは喫緊の課題である。」は報告書で何度もお目にかかりました。それなのに具体的な取り組み時期はどこにも書いていなかったです。

歌人の穂村弘さんが最近の「ちょっと苦手かも」という表現に対する違和感を述べています。一種の逃げ道を作ったうえでの否定表現と分析。みなさんはこのような言葉で済ませたり、ましてや「エグい」の一言で終わらせたりはしないでください！